

S I D R

(滋賀県感染症情報)  
SHIGA Infectious Diseases Report《月報》  
平成 24年 6月  
(第23 ~26週)発行年月日：平成24年(2012年)7月17日  
発 行：滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に届出することになっています。  
このことを全数報告といい、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症等を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 24年		平成 23年 <sup>†</sup>		感染症 類型	疾 病 名	平成 24年		平成 23年 <sup>†</sup>				
		1～5月		6月				1～5月		6月				
		滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	1							
	結核	116	11,802	17	2,480	338	31,467							
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0							
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0							
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0							
三類	コレラ	0	2	0	0	0	12							
	細菌性赤痢	0	100	0	4	5	299							
	腸管出血性大腸菌感染症	3	432	13	482	71	3,938							
	腸チフス	0	12	0	2	0	21							
	パラチフス	0	9	0	1	0	23							
四類	E型肝炎	0	61	0	11	0	61							
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0							
	A型肝炎	1	87	0	17	0	176							
	エキノコックス症	0	5	0	0	0	18							
	黄熱	0	0	0	0	0	0							
	オウム病	0	4	0	0	0	13							
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0							
	回帰熱	0	0	0	0	0	0							
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0							
	Q熱	0	0	0	0	0	1							
	狂犬病	0	0	0	0	0	0							
	コクシジョイデス症	0	1	0	0	0	2							
	サル痘	0	0	0	0	0	0							
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0							
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0							
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0							
	炭疽	0	0	0	0	0	0							
	チクングニア熱 <sup>(*)</sup>	0	0	0	1	0	10							
	つがい虫病	1	129	0	45	1	461							
	デンゲ熱	0	54	0	8	1	112							
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0							

(\*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-：未集計

\*1 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、H24.3現在)

滋賀県における全数報告感染症の概要  
(6月)

## &lt;結核&gt; 17名

性別: 男性 13名、女性 4名

類型: 患者 15名

無症状病原体保有者 2名

病型: 肺結核 10名

その他の結核 5名

無症状病原体保有者 2名

## &lt;腸管出血性大腸菌感染症&gt;

性別: 男性 8名、女性 5名

類型: 患者 9名

無症状病原体保有者 4名

年齢: 0～4歳 6名、5～9歳 1名

20～29歳 1名、30～39歳 2名

40～49歳 1名、50～59歳 2名

血清型・毒素型:

O157・VT1+VT2 4名

O157・VT2 2名

O145・VT2 1名

O26・VT1 6名

## &lt;アメーバ赤痢&gt; 男性 60歳

推定感染経路は経口感染で、推定感染地域はタイおよび中華人民共和国です。また、病型は腸管アメーバ症です。

## &lt;ジアルジア症&gt; 男性 71歳

推定感染経路は水系感染で、推定感染地域はネパールです。

## &lt;風しん&gt; 男性 4歳

推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で、推定感染地域は日本国内です。また、ワクチンの接種歴は1回目有り、2回目不明です。

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数 / 定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

### 6月の概要

#### <インフルエンザ>

先月(第18～22週、4/30～6/3)よりさらに減少し、第26週(6/25～7/1)の定点当たり患者数は「0人」となりました。2011/2012年シーズン(平成23年第36週～平成24年第35週、H23.9.5～H24.9.2)におけるインフルエンザの発生状況は、平成24年第26週現在では下記グラフのとおりです。

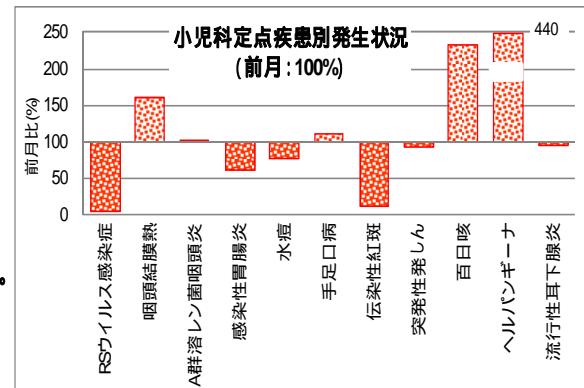
#### <小児科定点疾患>

右記グラフ(小児科定点疾患別発生状況)に示すとおり、前月より増加した疾患は咽頭結膜熱(ブルー熱)、A群溶レン菌咽頭炎、手足口病、百日咳およびヘルパンギーナで、特に、ヘルパンギーナで大幅に増加しました。また、各疾患の週別発生状況は、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照。

A群溶レン菌咽頭炎---先月に引き続き草津および高島保健所管内が多くなっていました。また、高島保健所管内では、第10～24週(3/5～6/17)まで警報発生基準値(警報開始基準値8.00、警報終息基準値4.00)を超えていましたが、第25週(6/18～6/24)に警報終息基準未満となりました。

感染性胃腸炎-----県全体では先月より減少していましたが、昨年同時期と比較すると約2倍増となっていました。また、保健所管内別では長浜および高島で多くなっていました。

ヘルパンギーナ-----県全体では第25週に急増し、高島保健所管内で多くなっていました。高島保健所管内では、第23～26週(6/4～7/1)の間、連続して警報終息基準値(2.00)を超えていました。また、長浜保健所管内では第26週に警報開始基準値(6.00)を超えていました。



#### <眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である急性出血性結膜炎は大津市保健所管内から、流行性角結膜炎は先月のほぼ倍増となり甲賀保健所管内からの報告が多くなっていました。基幹定点疾患であるマイコプラズマ肺炎は先月よりやや減少し、甲賀、東近江、彦根および長浜保健所管内からの報告がありました。また、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

#### <インフルエンザ(入院)>

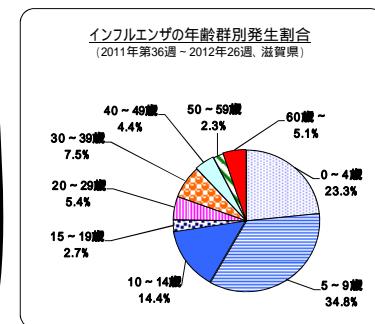
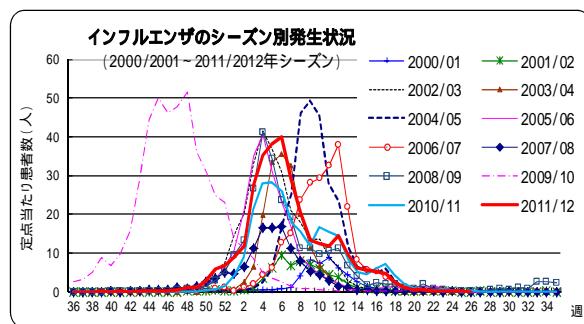
インフルエンザサーベイランスにおけるインフルエンザの入院患者の届出はありませんでした。また、全国における第23～26週の入院患者数は20名でした。

#### <疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

### インフルエンザの発生状況

2011/2012年シーズンの発生状況は、過去のシーズンの中で2番目に多くなっていました。年齢別では、60歳以上で過去のシーズン中、最も多くなっていました。



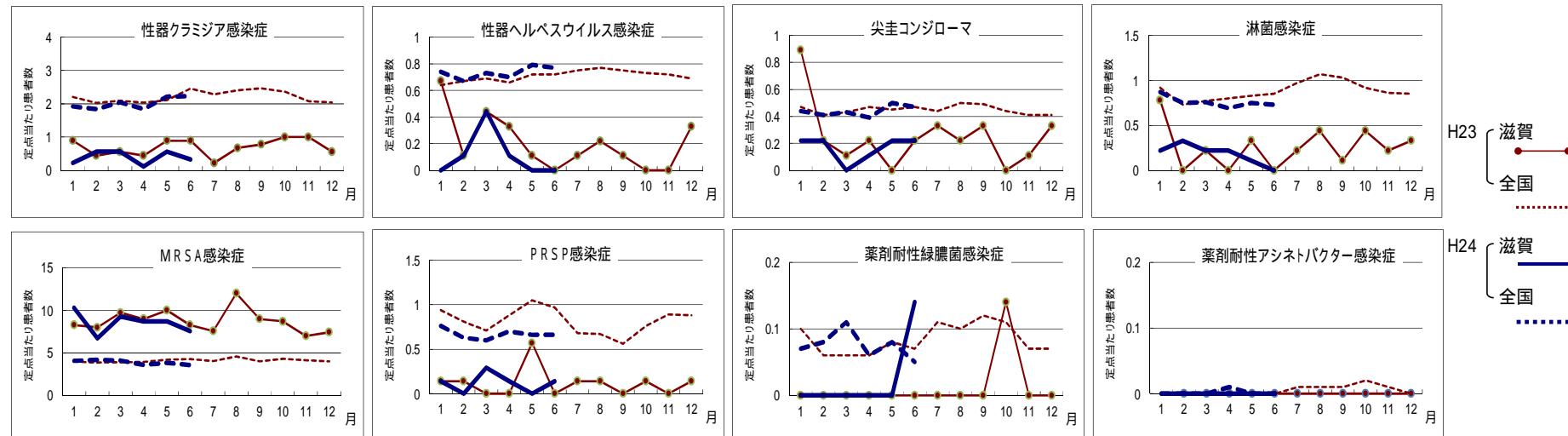
### <各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

### 3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成24年6月)

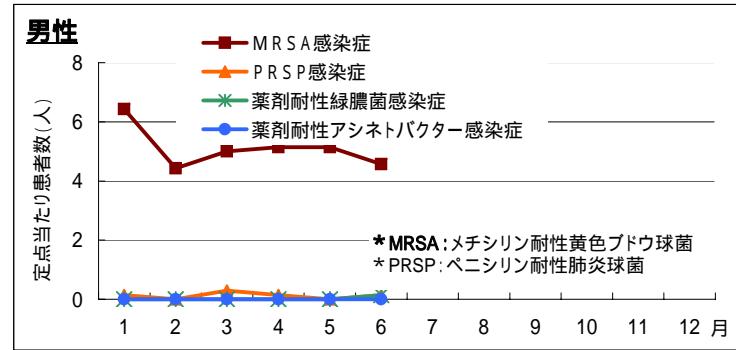
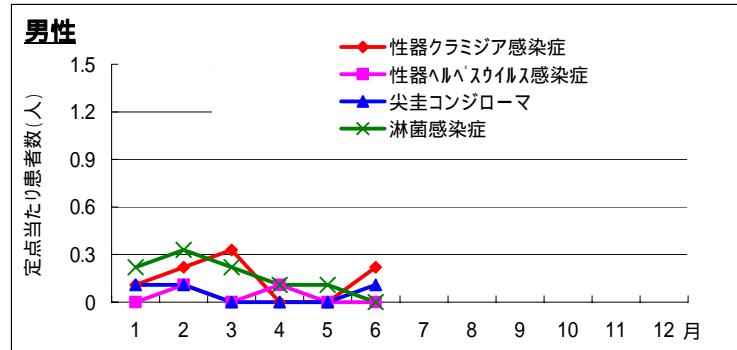
疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	2	5	5	1	5	3							21
	定点当たり患者数	0.22	0.56	0.56	0.11	0.56	0.33							2.34
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	0	1	4	1	0	0							6
	定点当たり患者数	0	0.11	0.44	0.11	0	0							0.66
尖圭コンジローマ	報告数	2	2	0	1	2	2							9
	定点当たり患者数	0.22	0.22	0	0.11	0.22	0.22							0.99
淋菌感染症	報告数	2	3	2	2	1	0							10
	定点当たり患者数	0.22	0.33	0.22	0.22	0.11	0							1.10
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	72	47	65	61	61	53							359
	定点当たり患者数	10.29	6.71	9.29	8.71	8.71	7.57							51.28
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	0	2	1	0	1							5
	定点当たり患者数	0.14	0	0.29	0.14	0	0.14							0.71
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	1							1
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0.14							0.14
薬剤耐性 アシнетバクター感染症	報告数	0	0	0	0	0	0							0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0							0



滋賀県における発生状況は上記に示すとあります。先月と比較すると、増加した疾患はPRSP感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症で、減少した疾患は性器クラミジア感染症、淋菌感染症およびMRSA感染症で、尖圭コンジローマは横ばいでした。性器ヘルペスウイルス感染症および薬剤耐性アシネットバクター感染症については、先月と同様、報告はありませんでした。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

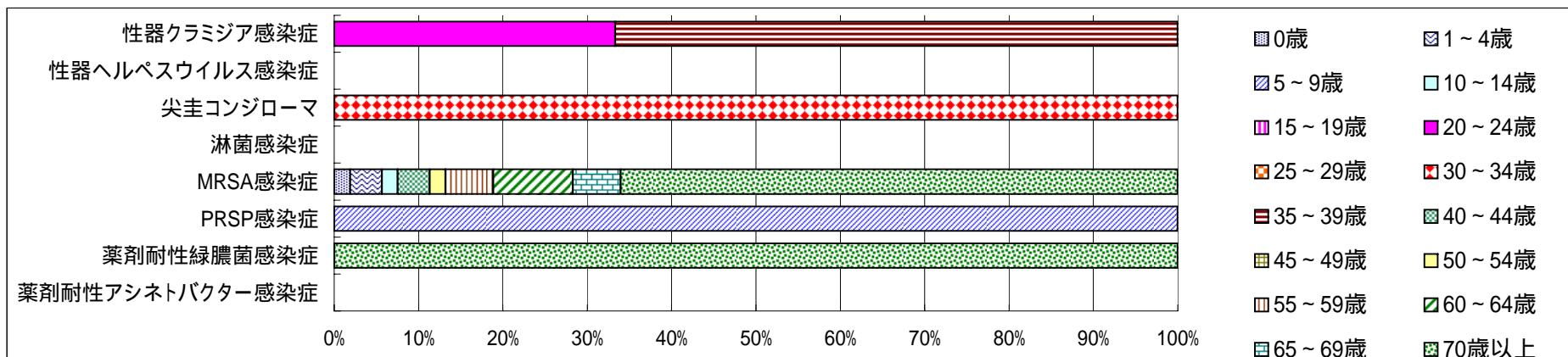
## 性感染症定点における疾患別発生状況 (H24.6)



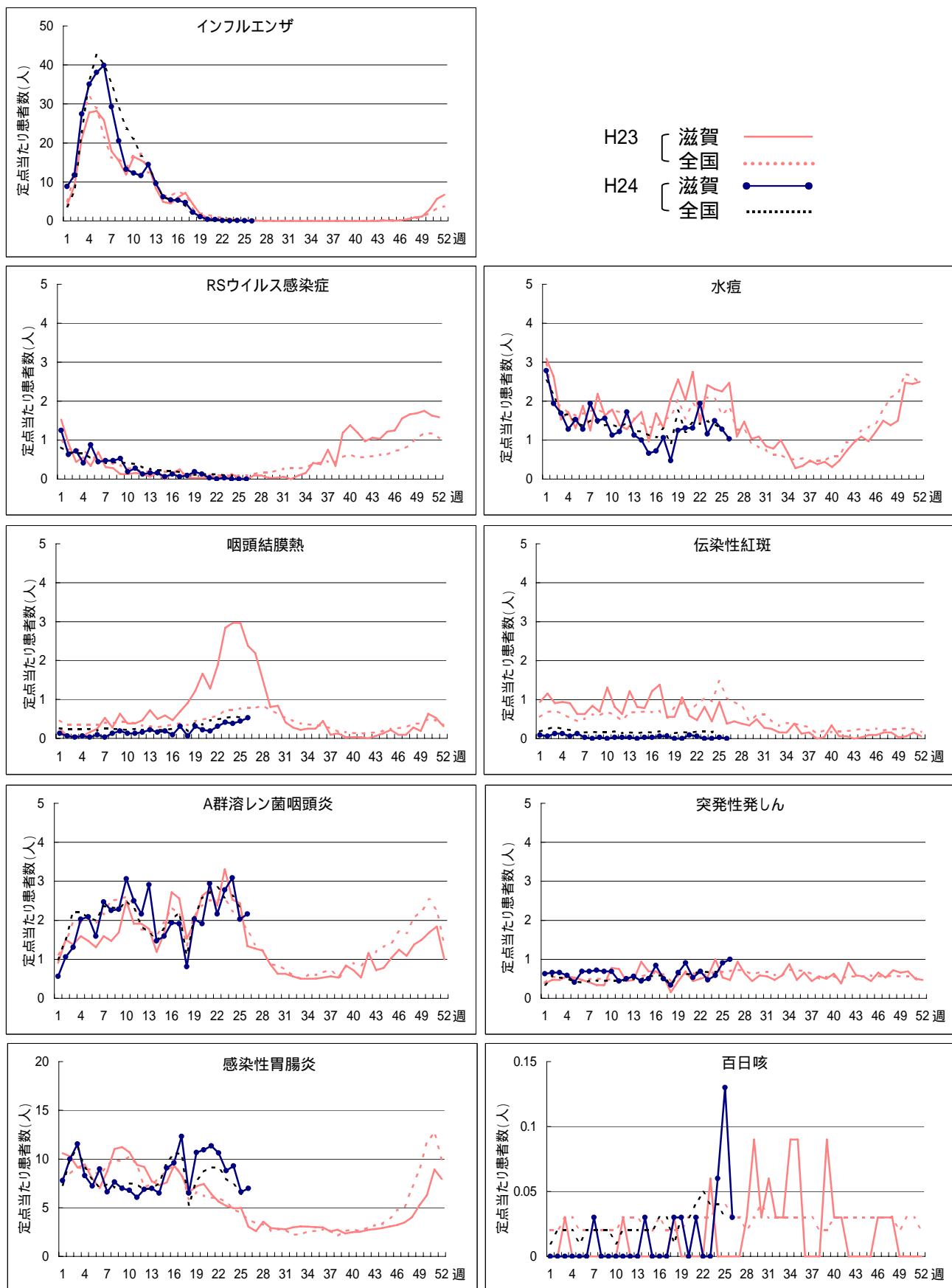
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとあります。先月と比較すると、性器クラミジア感染症は男性でやや増加し、女性で大幅に減少していました。その他の疾患については、大きな変化は見られませんでした。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性感染症定点疾患の性器クラミジア感染症および尖圭コンジローマでは、30～39歳からの報告がやや多くなっていました。

## 疾患別・年齢別発生状況(H24.6)



## 疾病別定点当たり患者数(平成24年第26週、H24.1.2～H24.7.1)



戻る

**疾病別定点当たり患者数**  
(平成24年第26週、H24.1.2～H24.7.1)

H23 滋賀  
全国  
H24 滋賀  
全国

